

CONCIERGE

by Mochimaru shokuhin Co.,Ltd. 13/July/2026/vol.885

紅花（ベニバナ）“ゴールドステラ” 「末摘花」 福岡・久保田農園 ～試験栽培中～ Safflower

紀元前 2500 年のミイラの着衣の染料として紅花が使われていました。それは防腐のためでもありましたが、「紅花」の赤は神聖で強い生命力を表す色として王の復活を願いつつ花も棺に納めたともいわれています。自然界では紅花のように美しい赤に染まる色素はまだ少なかったためとても貴重な植物でもありました。その上、血行を良くするとして漢方薬や他には食用としてもつかわれています。日本には 3 世紀ごろにシルクロードを経て渡来した「紅花」、京染や、口紅、頬紅の染料にと、高級品として取引されていたようです。紅花が県花でもある山形県では、最上川からの船による航路の開拓がなされて関西地方と強くつながり、当時紅花商人と言われる人々の活躍も相まって江戸時代中期には国内屈指の生産地となったということです。福岡の久保田農園から「紅花（ゴールドステラ）」が届きました。最近では花びらをフルーツとともにゼリー寄せにして美しい姿を愉しんだり、ケーキに混ぜ込んだり、トッピングにしてお料理に飾ったりしている光景も目にします。散らした花をよく見ると星のような切れ込みが可愛らしくもあります。見た目だけではなく花卉を使って、ほのかに移る黄色い色素を利用するなど、いろいろと楽しまれている様です。日本の歴史だけではなく世界が魅了されてきた「紅花」、しかしそんな話題豊富な花なれど実物はあまりにも楚々とした美しさ、そんな姿に心が奪われます。